古今雜話

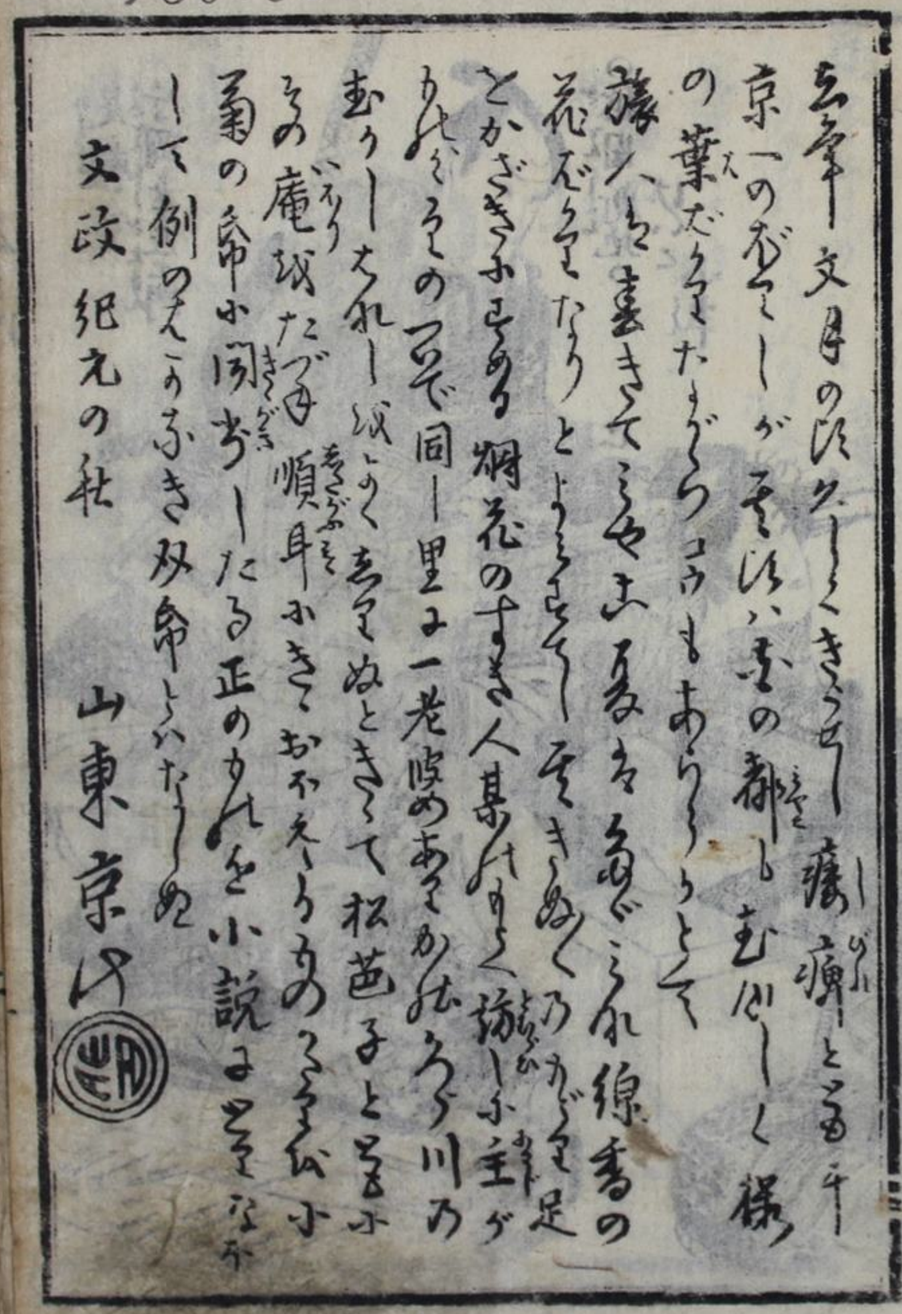
貴重書

国文
特別図書
1965年度

国文
241
166
4 3

40.8.26
ア306531

古今雜話



元年一文字の沢ゝしくきこえて癖癖とする千京一の花ゝしがそれは赤の都も玉川しく様の葉だゝきたまゝらコウもあらうとて藤ハも書きてこゝもよ多き多くこれ線香の花だゝきなりとよゝきてそきぬくのかゞきを足とかざきふこゝろ桐花の十きく人基けすく城しふ主ゲもゝそこの一つで同一里ゴ一老咲めあきめ松ゝ川の玉うしたれ一城ようく志ゝぬときくて松芭ゝとゝふ小ゝの庵城たづ女順耳かきておかゝうゝゝゝ伝小菊の節小同考したる正のゝれを小説ゝゝゝ小しゝ例のゝゝふき双命ゝハなゝめ

文政紀元の秋

山東京伝

足輕
片岡幸左エ門
○紙園新地の
けいこ小半

○都点流石町の
町人
帶屋長右エ門
○井筒や
仙居
小り

山東
旅者が道
行桂河
○針の宗兵衛
○長左衛門養父
法花長兵衛

邉語傳
文句兼堪
懺莫言小
冊都め屁
俚竟き朝
六十銭
京山
○兎石町のさいや
太なのや狼おさん
○帯屋長右エ衛門
枚駒の長吉

井筒屋

雲慶舎

春琴寫
田内
長

研三画監日

筆

東京山作
歌川國丸画

長

「あれ〻山まのぶきんであらう
「小ふやまちんち山ぶきんが
いろんせ

松亭鶴
小萩園

牛車樓

山人物あしそ

つくりもの

長
さが

花
きく

芝居

茶の
幸
町人のあさまさ

かつら川のゆらい
大當村

国文
24L
43